

# 畜産みやぎ

発行所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号  
宮城県畜産協会  
電話 022-298-8473

編集発行人

木村春雄

印刷所

(株)東北プリント



乳用牛の部第3区 名誉賞・農林水産大臣賞・宮城県知事賞  
栗原市 鈴木 義博 殿



抽選コーナー風景



肉用牛の部第5区 名誉賞・農林水産大臣賞・宮城県知事賞  
みどりの和牛育種組合 殿

## 平成18年度 農林水産祭参加 宮城県総合畜産共進会

### もくじ

C O N T E N T S

平成17年度子牛市場の動向と 今後の体制及び枝肉の市況について ……2・3	<衛生便り> 牛ウイルス性下痢・粘膜病 ……9
ソーラー電気牧柵のすすめ ……4・5	牛乳・乳製品フェア “20thミルクランド2006”開催について ……10
自給飼料増産の推進について ……6・7	農林水産祭参加 第46回仙台牛枝肉共進会の開催について ……10
<畜試便り> 「茂勝」号の産子で増体も魅力の「憲藤」号、 全国的な人気を誇る宮崎県の名牛 「安平」号の産子「安敏波」号が 基幹種雄牛としてデビュー ……8・9	平成18年度宮城県総合畜産共進会盛會裡に終了 ……11 <実践大生校生の抱負>「私の目標」 ……12 New face ……12

みやぎの  
畜産情報  
発信基地

### 宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>  
Eメール [info@mygchiku.or.jp](mailto:info@mygchiku.or.jp)



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、  
植物性大豆油インキを使用しています。

# 平成17年度子牛市場の動向と今後の体制及び枝肉の市況について

## 全国農業協同組合連合会宮城県本部

平成17年度食料需給表によると全体の食料自給率はカロリーベースで40%と8年連続の横ばいとなり、生産額ベースも69%と前年度と横ばいであった。肉類の国民1人、1年当たりの供給純食料はBSEなどの影響から牛肉は伸びなかった。一方、自給率も43%（前年度44%）と減少しているが10年前の平成8年と比較すると5%アップにはなっているが27年度長期見通しでは4%のダウンと暗雲が漂っている。1人1年あたり消費量は5.6キロで国内生産量は49万7千tと横ばいには変わらない。平成15年12月末に米国で発生したBSEにより輸入凍結の延長で国内外の貿易に関する影響が継続した1年でもあった。

そのような中で、和牛子牛は全国的に前年度対比は右上がり傾向にあり、全国から産牛地への導入に和牛子牛をもとめて購買に入っているのが現状になっている。

主要地域の子牛市場価格を見ると、飼養頭数の多い九州地区では宮崎県、鹿児島県、長崎県などが上位を占めている。東日本地区では青森県、栃木県などが上位にランクされ、北海道の和牛も着実に価格、頭数共に伸ばしてきていることが伺える。本県の状況を見ると前年度と比較して価格においては3万円ほどアップしている。頭数においても19,681頭と前年対比12頭の微増となりほぼ横ばいで推移した。全国的には農家戸数は勿論、頭数も減少していることが残念である。

市場上場の県有種雄牛別に見ると産子数は少なくなっている。順位では茂勝が4年連続トップを堅持している、次は茂系桜、奥北茂になっている。

茂勝は16年度6,904頭の上場があったが17年度は3,205頭と半分以下に激減した。県有種雄牛以外の種雄牛の使用がここ2～3年急増しており、本県の和牛改良に不可欠な県有種雄牛の復活を期待したい。

購買者のニーズとしては、発育、体積のすぐれた牛の評価は高く上場牛の9割を肥育素牛とする当市場にあっては、先進地等からの導入を推進し、個体的大型化への改良を図ってまいりました。その結果表1にも示したように、種雄牛別にみると概ね50万円から54万円台に推移しているが、平茂勝などは60

万円を大幅に上回る価格になっているのが目を引く。いづれにせよ、本県の種雄牛造成は肉用牛集団育種推進事業によって継続的に事業拡大推進していかなければならない。

生産者並びに購買者から期待される種雄牛造成が急務である。

子牛価格についてはBSEが発生した平成13年度を境に右上がり傾向にあり当然前年度との対比でも牝牛が28千円、去勢は32千円も向上した。その背景には、和牛頭数が減少していること、本県においても

表1

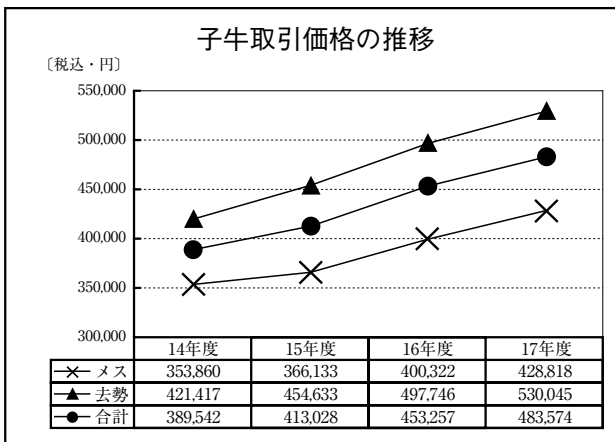
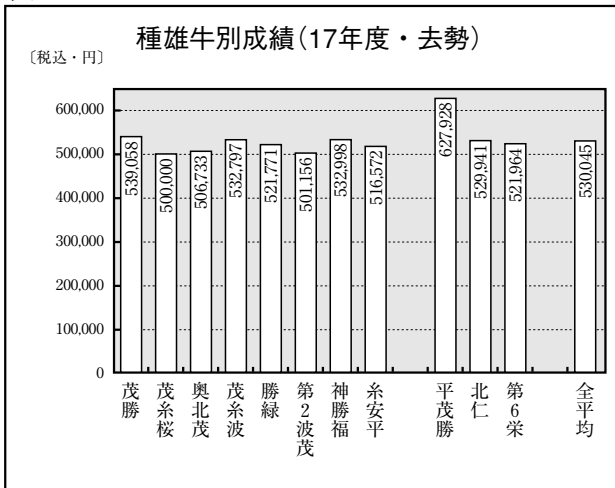


表2



前年度と比較すると230名の和牛繁殖農家が辞めており、高齢化の波が東北はもちろん全国的な現象となっているようだ。

幸い、辞められている方もいる反面、増頭希望者も多く、戸数減にはなっているが飼養頭数が微増状況にあることは和牛改良組合の組織づくりとJA等の関係機関の増頭対策推進にあると思う。

枝肉価格については表3にも示したようにA-5、A-3ともに、堅調な推移となった。米国からの輸入ストップの中での供給にも限界があり、「安全・安心」の国産牛肉に視線が向けられていることは当然であり、月毎には波はあるものの、A-5クラスでは2,700円台まで高騰した。A-3クラスにおいても12月などは2,100円台まで価格が高騰し肥育農家への収益向上には大きく貢献できた。前述したように枝肉重量も大きくなり、売上げ金額が100万円を超える牛が続出した。その影響で購買力がアップして子牛価格の高騰にもつながる要因になったのではない

か。

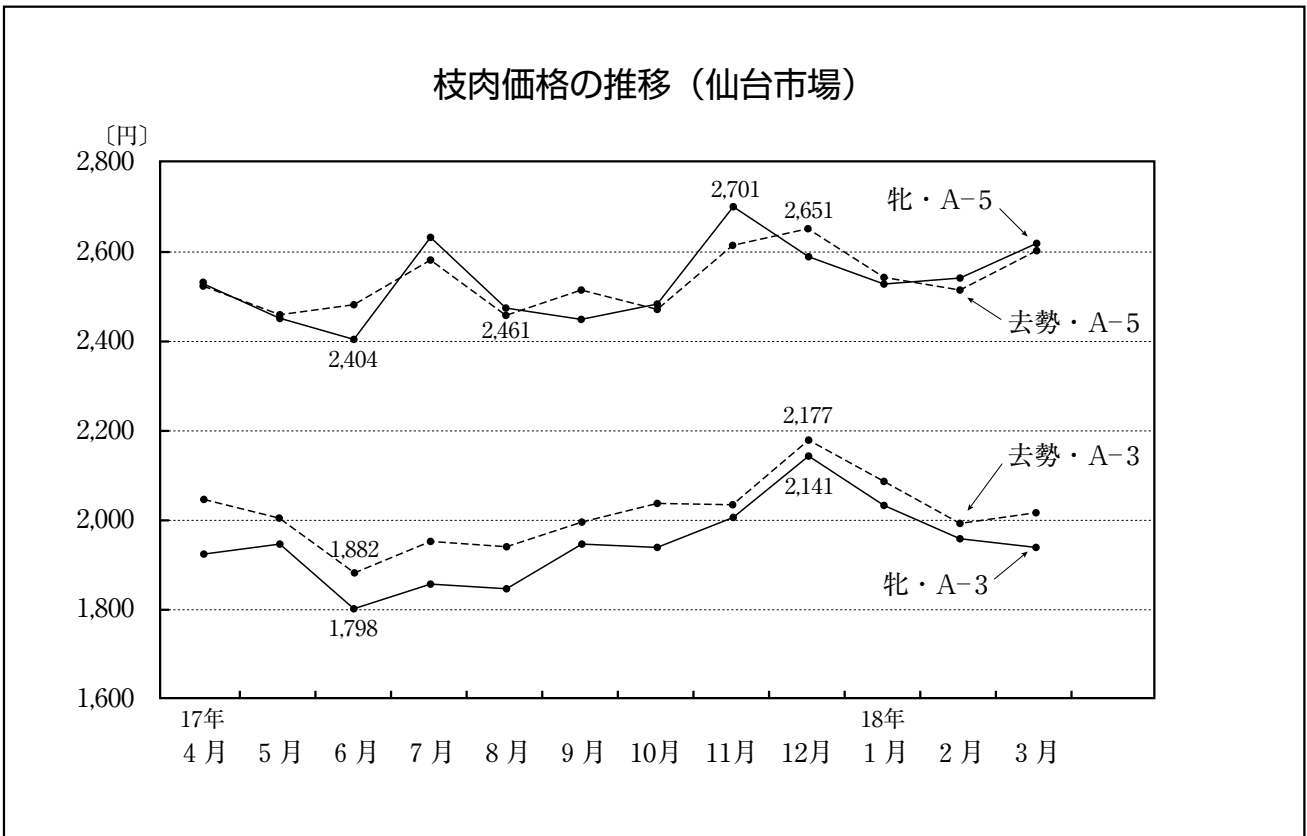
今後は牛肉輸入再開されても「安全・安心」は解消された訳ではないので国産牛へのこだわりは今後もつづくものと思われる。良質牛への嗜好は増々引き合いが強くなる傾向にあり、和牛子牛の価格が右上がりで推移するでしょう。

又、物不足は依然と継続傾向であり、国産牛の枝肉確保が大事になって来るでしょう。

全農みやぎといたしましても、農家経営確立に向けた生産基盤の拡大に取組み、増頭推進と繁殖預託事業の拡大、そして、休耕田等を活用した放牧経営の啓蒙を推進していきたいと考えています。又、肉牛販売として「仙台牛」の銘柄のもと、消費者に「安全・安心」を提供出来る体制づくりを図ってまいります。本県畜産振興のため、各関係機関と一丸となつての対応が重要である。

(畜産部 安住英一)

表3



## ソーラー電気牧柵のすすめ

## 宮城県草地協会

宮城県草地協会では、草地畜産生産性向上対策事業としてソーラー電気牧柵の生産施設整備を推奨しております。各団体・放牧集団にて事業申込みが出来ます。

## 第1 事業の内容

\*草地協会は、県団体が、草地畜産の振興を図るため、次に掲げる事業を実施するのに要する経費について補助するものです。

1. 県段階における草地畜産の振興及び事業推進のための会議の開催
2. 県段階における草地畜産コンクールの開催
3. 県段階における草地畜産経営の普及啓発、技術指導等
4. 放牧集団が公共牧場等において入下牧時の家畜運搬、家畜衛生対策、自給飼料生産（放牧集団のほ場において実施するものを除く。）その他の共同活動を実施するのに要する経費についての補助金の交付
5. 農業協同組合、農業協同組合連合会若しくは県知事が適当と認める団体（以下「農協等」という。）又は、放牧集団が、持続型草地畜産を行うのに必要な生産施設機械及びほ場の整備並びに家畜の購入に要する経費についての補助金の交付
6. 農協等又は放牧集団が、持続型草地畜産を行うのに必要な放牧基盤の拡大に要する次に掲げる経費についての補助金の交付
  - (1) 土地利用調整会議の開催に要する経費
  - (2) 土地の借入れ（賃貸権の設定を行ったものに限る。）に要する経費
7. 農協等が、高位生産草地への転換を推進するための調査、分析、技術指導に要する経費についての補助金の交付

## 第2 事業の要件等

## \*放牧集団

第1の3から6までの放牧集団は、次の要件を満たす集団とする。

- ア. 3戸以上の農業者（農事組合法人その他理事長が適当と認めるものを含む。以下同じ。）から構成されていること。
- イ. 放牧集団の構成員の2分の1以上が（ア）に該当し、かつ（イ）若しくは（ウ）のいずれかに該当する構成員の放牧の頭数が総放牧牛の2分の1以上であること。
  - （ア）肉用牛経営（乳牛複合経営を含み、肉専用種又は乳用種肥育牛（1ヶ月齢未満の乳用種を除く。）を飼養する経営に限る。）を営む農業者
  - （イ）酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律（昭和29年法律182号。以下「酪農振興法」という。）第2条の5に基づく経営改善計画の認定を受けた者若しくは認定を受けることが確実な者又は農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号。以下「経営基盤強化法」という。）第12条第1項に基づく農業経営改善計画の認定を受けた者若しくは受けることが確実な者
  - （ウ）酪農振興法第2条の3第1項の都道府県計画又は経営基盤強化法第5条第1項の基本方針に照らし都道府県知事が適当と認める者
- ウ. 集団の運営等に関する規約を有すること。

## 補助対策経費

\*農協等又は放牧集団が持続型草地畜産を行うのに必要な生産施設機械等。（1/2以内補助）但し労務費を含まない資材購入金額の1/2以内。

## ソーラー電気牧柵による簡易放牧のメリット

1. 荒れた農地を手軽に除草することができます。
2. 牛の繁殖成績が向上します。
3. 管理が省力的で、飼養経費を節減できます。
4. 少ない投資で手軽に設置できます。
5. 雑草が緑豊かな草地に変わり景観が改善されます。



従来の牧柵



電気牧柵



電気牧柵による放牧状況



従来の牧柵を利用した電気牧柵施設整備による放牧状況 ((社)宮城県農業公社 牡鹿牧場)

## 電気牧柵に必要な機材

電気牧柵は主に「電牧器」、「電牧線」、「電牧柱」から成っています。

電牧器  
(バッテリー保護のため入れています)

電牧線 (電線入ポリワイヤー)



電牧柱

電牧器：電気を発生させる装置です。ソーラーパネルから電源を取るものや、バッテリーから電源を取るものなどがあります。

電牧線：この線を伝わって電気が流れていきます。人間が触れると、静電気よりも大きな衝撃が伝わって思わず手を引っ込めるほどの強さです。

電牧柱：絶縁体の部分に電牧線を通して、電牧線を支えます。足で踏み込んで地中に打ち込めるようになっています。

お問い合わせ先：宮城県農業公社内  
宮城県草地協会へご連絡下さい。

担当：平間

TEL：022-275-9193

FAX：022-275-9195

## 自給飼料増産の推進について —飼料自給率向上に向けた取組—

宮城県産業経済部畜産課

平成17年度の日本の食料自給率は、40%となっており、平成10年から横ばいで推移しています。平成17年3月に公表されました「食料・農業・農村基本計画」においては、10年後の平成27年度には食料自給率45%を目標と設定しています。

これを達成するため、畜産に関しては、飼料自給率を平成15年の23%から平成27年度までに35%へ向上させることを数値目標として決めました。

こうしたなか、本県におきましても、飼料自給率向上に向けた活動強化を図るため平成18年2月に「宮城県飼料自給率向上推進協議会」を設置したほか、18年3月には酪肉近代化計画を見直し、粗飼料自給率100%を目標として設定しました。

飼料自給率向上に関する取組としましては、放牧の推進、稲ホールクroppサイレージの普及拡大、長大飼料作物（とうもろこし、ソルゴー等）の栽培、コントラクターの利用等があります。

宮城県の平成17年における飼料作物の作付け面積は、15,400haと、水稻に次ぐ面積となっております。このうち、牧草の作付け面積が13,100haで全体の85%となっており、県内で広く栽培されています。



(牧場の広い草地で草をはむ牛)

表-1 宮城県における飼料作物作付け面積の推移 単位：ha

区 分	H7年	H12年	H17年
牧 草	11,300	13,300	13,100
青刈りとうもろこし	2,380	2,040	1,620



(稲ホールクロップサイレージの収穫)

稲ホールクロップサイレージは、本県の気象・地域条件に適した飼料であり、平成12年以降広く普及し、水田を活用した有効な飼料作物となっています。今後も米政策改革推進対策と連携を深めながら栽培面積の拡大を推進していきたいと考えています。

表-2 宮城県における稲発酵粗飼料作付け面積の推移 単位：ha

H13年	H14年	H15年	H16年	H17年
111	142	189	176	181



(水田を活用した簡易放牧)

また、ここ数年は、ソーラー電気牧柵等を活用した簡易放牧が栗原地域を中心に取組まれています。簡易放牧は、自給飼料の増産、飼養管理の省力化、耕作放棄地対策等に期待され、今後は、県内全域へ普及促進を図っていききたいと思います。

生産された粗飼料は、多くの家畜へ給与され、また、ふん尿は肥料として農地へ還元され、粗飼料生産へと循環します。環境に優しい循環型農業を定着・拡大する上でも自給飼料増産の推進は、重要な取組です。

なお、自給飼料増産に係る飼料生産、機械導入、飼料基盤整備等に対する支援事業もありますので、詳しくは最寄りの家畜保健衛生所か地方振興事務所畜産振興部までお問い合わせ願います。

(草地飼料班 石川知浩)

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬(盛岡・水沢開催) 11・12月 開催予定表

・上段 岩手競馬開催日 ・下段 場外発売開催日

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
11月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木			
			盛岡								水沢									水沢													
		川崎				釜石	金沢	荒尾						金沢	荒尾								金沢	浦和	園田				金沢	荒尾			
12月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
			水沢								水沢																						
						金沢	船橋						金沢	川崎																			

※開催期間中の重賞レース

- ・JCBマイル(第6JCBスプリント)(11月2日 川崎) ・第6回JBCクラシック(11月3日 川崎)
- ・第27回彩の国 浦和記念(11月22日 浦和) ・第8回兵庫ジュニアグランプリ(11月23日 園田)
- ・第7回ジャパンカップダート(11月25日 JRA東京) ・第52回クイーン賞(12月6日 船橋) ・第57回全日本2歳優駿(12月13日 川崎)
- ・第6回名古屋グランプリ(12月20日 名古屋) ・第6回兵庫ゴールドトロフィー(12月28日 園田) ・第52回東京大賞典(12月29日 大井)

## 〈畜試便り〉

「茂勝」号の産子で増体も魅力の「憲藤」号、  
全国的な人気を誇る宮崎県の名牛「安平」号の産子「安敏波」号が  
基幹種雄牛としてデビュー

## 宮城県畜産試験場

「憲藤」号は平成11年3月12日、大崎市松山の加藤憲一さん宅で誕生しました。父が「茂勝」号、母の父は「宮滝」号、母の母の父が「茂重波」号です。母の「さざなみ」はみどりの和牛育種組合の育種牛です。

さざなみの父の「宮滝」号は、38岩田系の「第31青滝」号と第2横利系の流れをくむ母との交配で出来た広島系の種雄牛で、県の基幹種雄牛として活躍しました。

「憲藤」号は第21回間接検定で選抜され、第15回宮城県和牛育種報告書において枝肉重量が「宮滝」号と、脂肪交雑が「茂重波」号と同等の育種価(共にAランク)であることから、このたび増体も魅力な平成18年度新規基幹種雄牛として選抜され、デビューしたのです。

「憲藤」号は枝肉重量、ロース芯面積、脂肪交雑だけではなく、改良期待点として品位、均称の面でも期待できる質量兼備型の種雄牛です。また、「憲藤」号は広島系の優れた特徴も受け継ぎ、本県の「遺伝的多様性」の面から見ても貴重な種雄牛であると考えられます。

産子の特徴は資質と体深に優れておることから、最近の子牛市場でも高い評価を得ております。

なお「茂勝」号、「茂重波」号の娘牛との交配は近交係数が高くなるので注意が必要です。

「安敏波」号は平成12年10月、登米市南方町の遠藤敏さん宅で誕生しました。父の「安平」号は、肉質に優れた田尻系の代表的な種雄牛であり、母の父は茂金系の名牛「茂重波」号、母の母の父が増体に優れた藤良系「糸光」号です。



「憲藤」号



平成18年9月の子牛市場に出品された「憲藤」号産子



現場後代検定牛として用いられた「安敏波」の産子20頭は、検定開始時の約9ヶ月齢時点で発育、体積、体伸に優れ、その後平均29.3ヶ月で出荷された枝肉全体の格付等級は、A4・5率が65%とすばらしい好成績を収め、特に雌牛は88%でした。

また、畜産試験場酪農肉牛部のバイオテクノロジーチームが食肉処理場由来の卵子を用い、体外受精技術により「安敏波」号の産子12頭を生産しました。これまで9頭の枝肉成績が判明し、出荷月齢の平均は、29.5ヶ月で枝肉格付等級A4・5率は56%でした。

さらに、「安敏波」号は、同チームによって体細胞クローン牛が生産され、クローン検定が行われました。成績は、枝肉重量が493.5kg、ロース芯面積が57cm<sup>2</sup>、バラ厚が8.3cm、皮下脂肪厚が3.2cm、歩留基準値が73.2、BMSナンバーが10、枝肉格付等級がA-5でした。

以上の成績から、「安敏波」号は本県初の「安平」号産子の基幹種雄牛として選抜されデビューしたのです。

「安敏波」号は、鹿児島、宮崎からの導入牛や茂勝、茂糸波、第2波茂等の本県の基幹種雄牛の娘牛で発育の優れたものとの交配が最適です。また、「安平」号、「茂重波」号の娘牛との交配は近交係数が高くなるので注意が必要です。



「安敏波」号

(酪農肉牛部肉牛チーム 伊藤裕之)

## 〈衛生便り〉

### 牛ウイルス性下痢・粘膜病

#### 登米家畜保健衛生所

牛ウイルス性下痢粘膜病 (BVD・MD) は、BVDウイルスの感染によって起こる疾病で現在、日本では2つの遺伝子型が確認されており、それらがさらに生物型により分類されています。健康牛に感染した場合は、一過性の発熱、呼吸器症状及び下痢を呈するか、症状を示さず終生免疫を獲得します。この疾病が畜産経営上大きな問題となるのは、免疫のない妊娠母牛が感染した場合で、胎子の日齢により流産や先天異常 (小脳形成不全・盲目・奇形など) が起こります。特に、胎齢100日前後の感染では、胎子は感染したウイルスを自分の体の一部とみなし、抗体を産生せず、いわゆる「持続感染牛」として娩出され、生涯ウイルスを排出し続けます。持続感染牛は、発育不良、腹囲膨満、骨格異常などの症状がみられ、あらゆる分泌物 (糞便、尿、乳汁、鼻汁、唾液、精液など) にウイルスを排出し続けることから新たな感染源となります。さらに、この持続感染牛のうち2割程度は「粘膜病」を発症します。粘膜病となった牛は、40℃以上の発熱、元気消失、水様性の下痢、全身の粘膜の充出血、びらん・潰瘍などが認められ、多くの場合、数日から2～3週間以内に死亡します。

以上のことから、持続感染牛を発見した場合は、早期に淘汰することが必要です。県内でも「持続感染牛」及び「粘膜病」が確認されています。農場内で、病気にかかりやすい牛が多い、繁殖効率が低下した、流死産・奇形子が増加した等の場合は、持続感染牛の存在が疑われまので、最寄りの家畜保健衛生所にご相談下さい。発生を予防するためにはワクチンの接種が有効です。ワクチンは、生ワクチンと不活化ワクチンが市販されており、不活化ワクチンは妊娠牛にも接種できますので、新たな持続感染牛の出現を減らすことができます。

(防疫班 高野泰司)

## 牛乳・乳製品フェア “20thミルクランド2006” 開催について

宮城県牛乳普及協会

今年で20周年を迎える牛乳・乳製品フェアは、例年より以上に牛乳・乳製品の知識普及・消費拡大を図るイベントとし、また、昨年度に引き続き、3-A-Day運動（牛乳・ヨーグルト・チーズをどれでも自由に1日3回食生活に取り入れること）と食育に関しても提唱し、宮城県内の農林水産業及び商工業などの関係団体、並びに地方自治体等の協力を得て県産品の展示即売等を行なう「みやぎまるごとフェスティバル」と共同開催し、より効果的なイベントを開催いたします。

イベント内容としてキャンパスステージでは、タレントの石黒彩さんを迎えて、食育に関する牛乳・乳製品等摂取の必要性をトークして頂き、子供達が楽しめるNARUTO-ナルト-のキャラクターショー等も行います。

ミルククッキングスクールでは、大鍋試食会、ミルククッキング料理講習会等の牛乳・乳製品の料理コーナーを実施、ふれあいキッズパークでは乳搾り模擬体験コーナー、ふれあい動物コーナー、そしてミルク情報館では、例年好評の骨密度測定も実施し、調理器具の展示・食事バランスガイド解説パネル展示等、牛乳・乳製品の普及コーナーもあります。

来場者の皆様には、不規則な生活、偏った食事やストレスに悩む現代人の食生活を見直していただき、牛乳を飲み、乳製品を食べることの習慣づけを定着させ、牛乳・乳製品がより身近な食品で、栄養価の高いすばらしい食材であることを実感していただける2日間になると思います。内容等も盛りだくさんで十分楽しんでいただけますので、是非ご来場下さいますよう、よろしくお願いいたします。

開催日時 平成18年10月14日（土）、15日（日）  
午前10時～午後4時迄

開催場所 仙台市 「勾当台公園」

(村山ひろみ)

## 農林水産祭参加 第46回仙台牛枝肉共進会の 開催について

全国農業協同組合連合会宮城県本部

農林水産祭参加第46回仙台牛枝肉共進会を下記の内容にて開催することとなりましたので、多数ご参観くださるようご案内申し上げます。

### 1. 会期及び場所

- (1) 会期 平成18年11月5日（日）～8日（水）
- (2) 場所 仙台市宮城野区扇町六丁目3番16号  
仙台市中央卸売市場食肉市場

### 2. 出品区分及び条件

- (1) 肥育の完成されたもので、おおむね（±3%）次のものとする。

部	品 種	区 分	条 件
第1部	黒毛和種	去 勢	枝肉重量 390kg～520kg
第2部	黒毛和種	雌	枝肉重量 320kg～450kg

※ただし、瑕疵のある枝肉は審査対象外とする。

- (2) 出品牛は出品者において12ヶ月以上飼養され最長飼養地が県内のものとする。
- (3) 出品牛は血統明確なもので、これを証明する書類（子牛登記書等）を有すること。

### 3. 出品頭数及び屠畜・販売日

部	品 種	区 分	頭数	屠畜月日	販売月日
第1部	黒毛和種	去 勢	150	11月7日	11月8日
第2部	黒毛和種	雌	50	11月6日	11月8日
計			200		

(畜産課 高川信幸)

# 平成18年度宮城県総合畜産共進会 盛会裡に終了

社団法人宮城県畜産協会

宮城県畜産協会主催による農林水産祭参加平成18年度宮城県総合畜産共進会は、去る9月5日～7日宮城県食肉流通公社で肉豚の部を、9月23日みやぎ総合家畜市場において乳用牛、肉用牛の部をそれぞれ開催し盛会裡に終了いたしました。運営にあたりご協力賜りました関係者各位には心から御礼申し上げます。

本共進会の目的は、家畜の改良と飼養技術の向上を通じ健全な畜産の振興を期すところであり、今年度の出品もこれらの点を十分理解され地域の代表にふさわしい優れた出品畜でありました。また、消費者との交流を深めるため畜産物等の大卸売会、抽選会や機械・器具展示など各種イベントも同時に開催し好評を得ました。なお、各部の名誉賞受賞者は下記のとおりです。

### 乳用牛の部

- ・農林水産大臣賞・県知事賞 第3区 (16ヶ月以上20ヶ月未満) 栗原市 鈴木 義博
- ・農林水産省生産局長賞 第5区 (3歳未満) 丸森町 半澤 善幸
- ・団体賞 大河原地区

### 肉用牛の部

- ・農林水産大臣賞・県知事賞 第5区 繁殖雌牛群 (経産牛)  
みどりの和牛育種組合  
高橋則夫・後上孝行・加藤慶憲・結城英文
- ・農林水産省生産局長賞 第1区 若雌の1 (生後14ヵ月以上17ヵ月未満)  
大崎市 後上 孝行
- ・団体賞 大崎地区

### 肉豚の部

- ・農林水産大臣賞・県知事賞 第1区 ミギノクロス三元交雑種 登米市 小野寺 武
- ・農林水産省生産局長賞 第2区 第1区以外の肉豚 登米市 伊藤 範義
- ・団体賞 登米地区



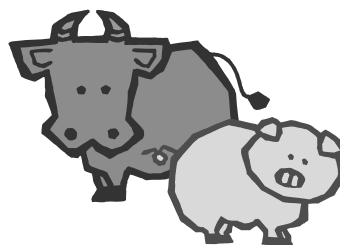
乳用牛の部 第5区 名誉賞・農林水産省生産局長賞  
丸森町 半澤 善幸 殿



肉豚の部 第1区 名誉賞・農林水産大臣賞・宮城県知事賞  
登米市 小野寺 武 殿



肉用牛の部 第1区 名誉賞・農林水産省生産局長賞  
大崎市 後上 孝行 殿



(経営支援課)

## 〈実践大学校生の抱負〉

## 「私の目標」

宮城県農業実践大学校  
2年 佐藤 祐太



私は実践大学校の畜産学部  
に入学して、畜産学部の目玉  
である2級削蹄師の資格を取  
得することを目標として目下  
学習に励んでいます。私の家  
は大崎市岩出山に位置し、水  
稲2ha、和牛繁殖牛4頭、  
育成牛1頭、子牛4頭を飼養  
していますが、母が会社員と  
して農外で働いているため、  
祖父母が中心になって管理し  
ています。それでいづれは安  
定した所得を得るため、和牛  
繁殖部門の規模拡大に努めたい  
と思っています。今の我が家の  
繁殖経営において子牛の下痢  
や繁殖障害などが発生しており  
、診療費ばかりがかさむことが  
問題となっています。例えば  
子牛の餌の管理や敷料の交換が  
不徹底だったり、発情のチェッ  
クが手薄だったりとか日常の飼  
養管理において改善していかな  
くはならないことが沢山あり  
ます。そのために今は学校で知  
識を付け、技術を磨いている毎  
日で学んだことを家で実践したり  
自分で調べたりもしています。

卒業したら即就農して更に技  
術を磨いて、分からない事が  
あれば地域の仲間に聞いてア  
ドバイス頂きながら、地域の  
一員としてまた、優良な繁殖  
農家を目指していきたいです。

特にこれからは牛の健康を第  
一に考え、畜舎や飼養管理な  
どの問題点を洗い出し、見直  
しをして行くと同時にポジティ  
ブリストで農薬や抗生物質など  
牛の管理に関与する薬品の使  
用についてももっと学習して  
食の安全・安心に配慮した健  
康で元気な子牛の生産に取り  
組んで行きたいと思っています。

## 〈New face〉

社団法人 宮城県農業公社  
鈴木 順



はじめまして、平成17年4  
月から宮城県農業公社白石牧  
場に勤務しております鈴木順  
と申します。出身は通称宮城  
県の湘南と言われている亘理  
町です。

私は、平成6年3月に宮城  
県農業短期大学畜産課を卒業  
しました。自宅が非農家である  
ことから家畜に携わるのは10  
年ぶりの事で不安を感じながら  
のスタートでした。

現在私は白石牧場に勤務し、  
蔵王山麓を眺望出来る広大な  
牧場で約800頭(放牧)の和牛  
を飼育し、優れた肉質で定評  
のある宮城の和牛に、肉量も  
とれる素質を加えていく「新  
しい牛づくり」に取り組み生  
産子牛の供給を行っています。  
そうした中で主な仕事は、子  
牛の治療を担当しております。  
子牛の病気は下痢や感冒が多  
く、治療するにあたって早  
期発見・早期治療が一番重  
要と言う指導を受け、子牛の  
表情や腹部のへこみ、下痢に  
よるお尻の汚れ、歩行中のふ  
らつき等様々な症状から病牛  
を見極められるよう常に努力  
を重ねている毎日です。

入社当初はなかなか病牛を発  
見することが出来ず自分の力  
不足を痛感する日々が続いま  
した。

現在では、先輩方の指導の基  
に治療を担当し1年が経過  
したこともあり徐々にではあ  
りますが自分自身の成長を感じ  
取れるようになりました。

この1年を振り返ると宮城県  
農業短期大学で家畜に接する  
時間が限られていた私にとって  
畜産に対する考え方が大きく  
変わり、今後の業務を行う上  
で大きな糧になって行くと同  
時にその一端を担えるよう先  
輩方の指導を頂きながら知識  
や技術を身につけ一歩でも  
近づけるよう精進し、畜産業  
の発展に少しでも貢献出来  
ればと考えておりますので、  
今後ともご指導ご鞭撻を頂  
きますようどうぞよろしくお願い  
申し上げます。